

京都ノートルダム女子大学 カトリック教育センター主催 研究会

「主権」という言葉の裏側に潜むもの： キリスト教思想から読み解く現代日本のゆくえ

「主権者教育」という言葉を、最近ニュースや教育の現場で耳にすることが増えました。私たちは当たり前のように「自分たちはこの国の主権者である」と考えていますが、実はこの「主権」という言葉、専門家の間ではその危うさや扱いの難しさがたびたび指摘されています。

一見すると、現代日本の政治や法律の話と、キリスト教の思想は遠く離れた別世界のことのようと思われるかもしれませんが、しかし、私たちが今使っている「主権」という考え方のルーツをたどっていくと、実は中世から近世にかけてのヨーロッパで、神学（キリスト教の教え）をめぐる複雑な議論の中から形作られてきたという歴史が見えてきます。

発表では、現代の日本法学が持っている「主権」のイメージをときほぐし、それがどのようにキリスト教思想の歴史とつながっているのか議論していきます。

こうした歴史や思想を紐解くことは、好事家のための「知識自慢」ではありません。キリスト教研究という視点を持つことが、私たちが生きる現代社会のルール（法）をより深く理解するための土台になるかもしれません。その可能性を、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。

日時：2026年6月23日（火）16:30～17:30（16:00開場）

場所：京都ノートルダム女子大学ユージニア館4階E403

**お問い合わせ：カトリック教育センター Tel 075-706-3654
（火～金、8:45～17:30）**

**交通アクセス：京都市営地下鉄烏丸線北山駅1番出口から
東へ徒歩7分**

（お車でのご来場はご遠慮ください）

入場無料、予約不要



寒野 康太 かのの・こうた 南山大学人文学部キリスト教学科講師、ドミニコ会（説教者兄弟会）会員（カナダ管区）。1974年、東京生まれ。2002年、ドミニコ会（カナダ管区）に入会。カナダでの養成ののち、2009年、司祭叙階。その後、サン・ジャック修道院に配属され、パリ・カトリック大学にて、ジョン・ヘンリー・ニューマンの神学手法について研究（博士号取得）。2018年より、上智大学短期大学部、東京純心大学、日本カトリック神学院などで非常勤講師を務め、2020年より、南山大学人文学部専任講師、立教大学兼任講師。また現在、ドミニコ会観想会聖ヨゼフ修道院（愛知県瀬戸市）の総長代理も務めている。